

第42号

〒542-0072 大阪市中央区高津 2-8-10 末広ビル 502 号室
Tel(06)6214-0753 Fax(06)6214-0755



御挨拶

明けましてお目出度うございます。
皆様よき新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

一般社団法人 関西常磐津協会

理事長 常磐津 都志蔵

さて、前理事長が昨年八月十五日急逝されたことにより、僭越ながら私が理事長の重責を務めさせていただくことになりました。

思えば昭和十六年、先々代十五代目家元 常磐津文字太夫師に始まりました関西常磐津協会も、常磐津文字八会長（のち二代目常磐津林中）、私の取立師匠分家常磐津文蔵会長、理事制となり理事代表の常磐津綱太夫師、法人化以前から御尽力された人間国宝常磐津一巴太夫さんと、錚々たる諸先輩のあと、まことに未熟な私でございますが、皆様の御指導御鞭撻をどうかよろしくお願い申し上げます。
また常磐津節の伝承と技芸



向上、若手育成のため昨年より始めた半世紀ぶりの『三世相錦繡文章』の全段通しを、今年秋の第七十六回公演会に行していきたいと思っております。

会員全員の総意にて、日本の文化発展のため一致団結、気持ちを新たに努力を重ねる力を尽くしてまいりたいと存じております。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

第十九回

ときわぎ

一、御祝儀

太夫・三味線

〈常磐津教室〉

一、将門

浄瑠璃 日根まち子

一、松の羽衣

浄瑠璃 岩本銀子
三味線 石丸律子

一、竹生島

浄瑠璃 田中千鶴子
岡島千賀子
田口方子
三味線 日根ゆづる

一、狐火

都昆蔵社中
浄瑠璃 ジュリー・イエツィー

一、山姥

美佐季社中
浄瑠璃 向平美希

一、吉田屋

綱男社中
浄瑠璃 遠藤 肇

日時 平成27年1月25日(日)
開場:午後12時30分
開演:午後1時
場所 国立文楽劇場 小ホール
入場料 ¥3,000

一、三保の松

小欣矢社中
浄瑠璃 菊野齋敏
東村信江こと
小添

笠崎年子
曾我一美
平田 都

矢野敦子
橋本典子
門田さおり

西口さとみ
恒川美咲子
伊賀上文字

三味線
上調子 園延 舞

一、宗清

一巴太夫社中
名古屋
勝田ちえりこと
浄瑠璃 巴 瑠奈

一、八段目道行

都昆蔵社中
竹輪陽子こと
浄瑠璃 都 陽

一、福島屋

一巴太夫社中
名古屋
河合文隆こと
浄瑠璃 巴 文太夫

一、福島屋

一巴太夫社中
若柳於琴こと
浄瑠璃 琴 巴

一、福島屋

一巴太夫社中
若柳於琴こと
浄瑠璃 琴 巴

一、福島屋

一巴太夫社中
若柳於琴こと
浄瑠璃 琴 巴

一 巴太夫さんを偲んで

常磐津小由太夫

突然の知らせに啞然として、言葉が出ないままに呆然として頭の中で色々な出来事が浮かんできました。協会に於いての故人はさすがに大きな存在感を表わしておられました。

一 巴太夫さんには私事ではありませんが、大変お世話になりました。私の結婚式の司会をして頂きました折に、二人でお宅へ伺いまして打ち合わせをしました。私が、時間を忘れる位綿密に相談にのって頂きました事を思い出します。

私の初めてのお芝居出演に誘って頂いたのが、今は無くなりました道頓堀の朝日座で、演目は女夫狐でした。その興行で一 巴太夫さんが初めてお芝居の立て語りを勤められた舞台で私の芝居の初舞台でした。勿論私は満足の出来ではありませんでした。しかし温かく見守っていただけの自分を糧として頑張れた事が私の芸の財産になった

と信じています。

今回の公演会の指導を一年かけて毎月数回来て頂きました。その熱意には今更ながら驚かされました。協会にとつて大きな宝を亡くしたのは痛手ですが、我々協会員個々の技芸のレベルアップを目指して日々精進して行く為に私も含めて頑張りたいと思います。

千本出水の思い出

常磐津小三郎

私が師匠と初めて舞台を御一緒させて頂いたのは、昭和四十四年十二月、南座での顔見世でした。演目は松島屋さんの「廓文章」で、当時、私は大学四回生で、もちろんお芝居も初舞台でした。その時に、この世界の所作やしきたり等、いろいろと教えて頂いた記憶があります。

その後、卒業して社会人になつてからは、私の事情で舞踊会の下合せに行ける時が少なく、いつも師匠の自宅（当時は京都、千本出水に住んでおられた）に

電話をして、当日の楽屋入りの時間、演目の抜き差し等をお聞きした事を覚えています。しかも、毎日決まった時間（十一時から十二時）に、銭湯へ行かれるため必ず、十一時前に電話をかけていました。又京都での仕事の際、私が車で行っていた時は、必ず出水の自宅迄お送りしていました。

記憶に残る舞台は、師匠が御自分のお弟子さん主催のリサイタルの会で三味線を弾かれ、私が入調子で出演させて頂いた事も、思い出します。

近年は協会の為に力を注がれ私も理事の一員として協力させて頂いて頂きました。今後常磐津節の発展、後継者育成の為、まだまだ現役でおられると思つていましたのに、突然の死去、残念でなりません。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

一 巴太夫師匠との思い出

常磐津綱男

一 巴太夫師匠との思い出はやはり平成8年、私の師歴20周年の会で「式三番叟」を語つて頂いた事でしょうか。「太夫は三味線弾きが育て、三味線弾きは太夫が育てる」と恩師綱太夫が良く言つて居りました。既に師匠を亡くして居りました私ですが記念の会には是非、式三番叟を演奏したいと思つて居りました。一 巴太夫師匠にお願いしたところ快く引き受けてくださり、下合わせ、本番ともに真横で弾かせて頂きその迫力に圧倒されました。綱太夫の語りしか知らなかった私にとつては新たな世界を見たと言つた感じです。綱太夫の語りを「柔」とすれば一 巴太夫師匠は「剛」と言つた感じでした。因みにその時の山台は浄瑠璃が一 巴太夫師匠、故文磐太夫さん、小由太夫さん、欣勢太夫さん、一 佐太夫さん、三味線は脇に故小欣司師匠、都菰藏さん、小欣矢さん、そして上

調子を東京の一寿郎さんに弾いて頂き、お囃子が藤舎呂浩連中と言う豪華な舞台で、華を添えて頂きました。

その後同じく30周年記念には「恨葛露濡衣」、平成18年から始めた常磐津綱男勉強会では1回目に「宗清」、2回目「関の扉」、3回目「太田道灌」、4回目「山姥」そして5回目の東京紀尾井ホールでは名古屋のお芝居と掛け持ちして頂き「三世相錦繡文章 福島屋 長庵殺しの段」を語って頂きました。何時も舞台の事を考えて下さり、演目によりお芝居で使用する肩衣や見台を貸して頂きました。そしていつも終演時には舞台にてご挨拶を頂いておりました。

綱太夫の言葉を借りればまだまだ勉強させて頂き育てて頂きました。一巴師匠なら忠臣蔵二段目の加古川本蔵は、八犬伝の伏姫は、朝顔日記の深雪は如何演じられるだろう、如何語られるだろうと考えますと、其の横で弾いてみたかったという思いに

残念でなりません。
ご冥福をお祈り致します。

人生を決めてくれた一巴太夫師

常磐津小欣矢

一巴太夫師は父とずっと仕事をしましたので、自分にとっては小さい頃から父の仕事仲間のおじさんと言う存在でした。それだけに思い出はたくさんあるのですが、一番の思い出はこの社会へ入るきつかけとなった一言です。

父に家を継げと言われた事はないのですが、やはり家の仕事に気がなり高校卒業後どうしようかと迷っていた時イタリアでの舞踊公演の仕事があり、みなさん忙しいので僕に声がかかり一巴太夫師と一緒に行く事となったのです。そのイタリアで「どうだ、やらないか」と言われ、その一言で決心がついた、と自分の人生において本当に大きな一言だったと思います。そしてもう一つここ三・四年一巴太夫師のお三味線を弾かせ

ていただいた事は、自分にとって大変良い勉強となりましたし、良い思い出もありました。NHKの録音でお声をかけていただいた時の曲が2曲とも以前一巴太夫師が父と録音した曲で、この様な事はないと思いい父のテープのB面に入れて大事にしております。

今後は残った者で関西常磐津界を盛り上げて参りますので、いつまでも見守って頂きたいと思えます。

合掌

師匠との最後

常磐津巴瑠幸太夫

この写真は、一巴太夫師匠が亡くなる数時間前です。

八月十五日、大阪文楽劇場で松尾塾子供歌舞伎の舞台稽古の時です。午後二時頃稽古を終え、宿泊先のホテルに帰り「今晚の夕食はうなぎを食べよう。」と言われ、宗右衛門町にある店を午後六時に予約を入れに行き、師匠は夕食迄の間、めったにし



ない昼寝を一時間されたそうです。隣部屋にいる師匠を迎えに行き、小雨の中をゆつくり店まで歩き「今日はどうしても特上が食べたいんだ。君も一緒の物にしなさい。」と、半ば無理矢理でした。食事中もいろんな話をし、特に九月歌舞伎座出演を喜んでおられました。「流石に今日は食べ過ぎた。明日からまた良い声を出そう。」そう言いながら帰りもホテルまでゆつくりゆつくり手を引いて帰りました。「じゃあまた明日、オヤスミ。」それが最後の師匠との会

話でした。
本当に有難うございました。
安らかにお休み下さいお師匠さん。

一巴太夫様を悼んで

常磐津美佐季

八月十六日、突然の訃報に驚き信じられませんでした。幾度

か入退院をされていましたが、退院後のお姿は、何時も健康そのもので、びっくりする程のご回復でしたから……

一巴太夫様とは、六十余年のお付き合いで、若い時は、その頃の若手勉強会「青風会」などで、ご一緒に勉強させて頂いたり、又、踊り地で「蘭夫人」と云う中国風の新しい曲を二人で語らせて頂いたり、青風会のメンバーで泊りがけの白浜旅行や和歌山へハイキング、京都の鞍馬へと想い出はつきま

せん。

一巴太夫様はとても美声で、常磐津を多くの方々に感動を与えてこられました。協会では、理事長として、常磐津の発展に尽力なされて、大事のお方でした。長い間お疲れ様でした。心からご冥福をお祈り申し上げます。

師匠との出会いで二足の草鞋

常磐津巴松太夫

師匠との出会いは、花柳流家元主催の講習会で知り合った花柳創依さんから「芳圭蔵さん、男性はセリフを勉強した方が良いいよ」と言われ、師匠を紹介して戴くことになり、昭和54年師匠のお稽古場祇園老舗お茶屋「枳梅」で面談することになりました。私は以前から歌舞伎や舞踊会で「関の扉(下)」「将門」「戻橋」等の演目を語っている山台の師匠のお姿を何度か拝見拝聴しており、なんと重厚で艶っぽい声の人だなと感動した覚

えがあり、早速師事することになり、京都の自宅まで片道約2時間掛け、お稽古を受けることになりました。3か月経過後、「君は踊りで常磐津の曲を聞き、よく知っているので、稽古に励み、早く名前を取得できたら舞踊会に出演させたいと考えている。来月から月謝は要らないよ」と言われ、なんと懐が広い人だなあと思い、大変有難く感謝で一杯でした。踊りの上達に台詞を勉強しようと弟子入りしたのですが、常磐津の稽古に精進するようになり、日毎に日本舞踊から常磐津へと気持ち傾きました。遅まきの入門でもあり、将来の生活の事も考え、公務員の仕事に就きながら休日に舞台出演出来ますようお願いをし、了解を戴きました。昭和54年42歳で第17代常磐津文字太夫お家元様より名を許され、7月中座での歌舞伎演目「釣女」(市川團十郎文)で初舞台出演することができました。ここからが二足の草鞋の始まりです。

事始めには先輩方と親交を深

め、新年会では祇園枳梅にてお客と一緒に茶屋遊び、5年毎の一巴太夫の会では歌舞伎役者との共演、道頓堀朝日座のお稽古で團十郎丈と一緒になり、その帰り道スナックへお連れしたこと等……勤め人では味わえない良き思いをさせて戴きました。楽あれば苦ありで、二足の草鞋を選択したことで、毎日が時間との格闘で時間調整に苦慮しました。師匠は話好きで、京都、大阪の舞踊会終了後に評論家や舞踊関係者を交え、コーヒーを飲み乍らお話をされます。師匠の鞆を預かり待機しているのですが、長話のため神戸迄の終電に間に合わず、阪急西宮止まりでそこから神戸までタクシーで帰宅した事が何度かあります。又、師匠自身几帳面な方でしたので私が楽屋等で身の周りをお世話する際、大変苦手な私は粗相、失敗が多くお叱りを受けました。

先般の第75回公演会では師匠の指導による三世相錦繡文章(前

半)を男性正会員の仲間と共に出演する事ができました。第76回公演会も三世相(後半)の演目が決まっております、師匠の教えを楽しみにしていました。急に偉大な人に逝かれ、叶える事が出来ず誠に残念でなりません。どうぞ来世においても極楽浄土にて三世相の浄瑠璃をお楽しみ下さい。

思い出

関西一巴会会長

常磐津杉巴太夫(杉崎則夫)

常磐津一巴太夫師匠の突然の悲報に思わず頬をつねって、夢ではないのかと呆然と心が宙を舞っていました。

常磐津の稽古は昭和54年に祇園町の芸妓衆の薦めで枳梅さんで習い始めました。あまりにも熱心に、あの美声で教えられるものですから、つつい常磐津に没頭してゆきました。

翌年に当時は海老蔵であった、市川團十郎様が稽古におみえになりました。一番の思い出は

ました。

平成7年に人間国宝に推挙され常磐津界はもとより、我々社中もが大変誇りに感じました。

昭和27年から京都で続いております「邦楽を楽しむ会」にはお師匠様は最初の頃からご出演をお願いしておりました。平成23年に会が60年、還暦という事で記念に片岡仁左衛門様に常磐津の吉田屋を三味線でお願いたしましたしたら、父13代目からのお付き合いでもあるので喜んで引き受けて下さり、三味線は片岡仁左衛門様、語りは常磐津一巴太夫師匠と私とまるで夢のような組み合わせで場内は通路まで満席でその時の熱気が今でも忘れられません。

私の人生もお師匠様と一緒に歩んで来ましたので体の一部が抜け落ちたようです。稽古でお師匠様のテープを聞いておりますとふつと、また稽古をと錯覚致します。まだまだ思い出話は尽きないですが、あのお師匠様の語り声は一生私の耳から離れる事はないでしょう。

協会だより

平成26年9月23日(火)平成26年度第6回理事会において、常磐津都岳蔵を理事長に選任しました。

行事報告

第七十五回 常磐津節公演会

平成26年11月15日(土)
午後2時開演

大阪・国立文楽劇場小ホール

昨年から来年にかけて、三世相錦繡文章を通して演奏致します。

今回はその初回として「福島屋の段(店先・縁切・長庵殺し)」と「洲崎堤の段」が、他に富士山の世界遺産登録を記念して「三保の松」とご祝儀物の「寿末広」が演奏されました。すっかりお馴染みとなった桂九雀師匠の楽しい解説もあり、大変なご好評をいただきました。

個人報告

第八回 常磐津綱男勉強会

平成26年11月2日(日)
午後1時半開演

京都府立文化芸術会館

「常磐津節で綴る京都の名所」と題して京・近江にちなみ「うつぼ」「竹生島」など全七段が演奏

され、ご門弟の皆様が一生懸命に日頃の成果を発表されました。



第六回 伝統と創造シリーズV

長栄座公演
平成26年11月8日(土)9日(日)
午後2時半開演

滋賀県立文化産業交流会館

舞踊「廓八景」

立方 宮川町 ふく葉

浄瑠璃 巴瑠幸太夫

若音太夫

三味線

小欣矢

小東矢

狂言師・茂山逸平さんの司会進行で、宮川町歌舞会の芸舞妓のあてやかな舞台で満員の寄席を魅了しました。

第十回 江戸音曲の世界

常磐津一巴太夫を偲んで
平成26年11月10日(月)
午後1時20分開演

追手門学院大学
国際教養学部アジア学科

10回記念として「うつぼ」を演奏する予定でしたが、今回は追悼の意を込めて「道行蝶吹雪」を演奏しました。

講師 永吉雅夫先生

浄瑠璃 巴瑠幸太夫

三味線 都史

第五十回 甲南大学撰津祭

平成26年11月24日(月・祝)
午後1時開演
甲南大学
甲友会館大ホール

「釣女」
浄瑠璃 亜香音
三味線 三都貴
小東矢

亜香音さん麒六さんが母校である甲南大学の大学祭(演劇祭)で歌舞伎文楽研究部の地方をつとめました。



第二回 常磐津都史之会

平成26年12月14日(日)
午後4時開演

京都・先斗町歌舞練場
奥田雅楽之一様の琴、片岡リサ様の胡弓との共演による「壇浦兜軍記―琴責之段―」坂東奈央様による舞踊「道行丸にいの字」が演奏され、会場もほぼ満席で華やかな演奏会となりました。



行事予定

第十九回 ときわぎ

平成27年1月25日(日)
午後1時開演

大阪・国立文楽劇場小ホール

本年も正会員のご門弟および教室会員の皆様がお稽古の成果を披露されます。

演目・出演者等詳細は1ページをご覧ください。

行事予定

常磐津塚法要

平成27年4月4日(土)

正午読経

大阪・寂光寺(江口の君堂)

第三回 定時社員総会

平成27年6月予定

理事・役員の変更並びに協会組織の再編が行われます。

第七十六回 常磐津節公演会

平成27年10月3日(土)

大阪・国立文楽劇場小ホール

三世相通し演奏の第二回は、十萬億土の段・墮地獄の段・極楽の段までを演奏予定です。ご期待下さい。

個人予定

座談会「常磐津節の伝承と現在」

平成27年2月2日(月)

午後1時より

京都芸術センター講堂

主催 京都市立芸術大学

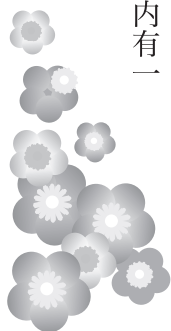
日本伝統音楽研究センター

お話し 文字太夫

都岳蔵

竹内道敬

司会 竹内有一



常磐津節保存会講習会

平成27年2月2日(月)

午後2時半より

京都芸術センター講堂

演目「薪荷雪間の市川」

浄瑠璃 美佐季

都代太夫

若音太夫

三味線 都岳蔵

都史

三之祐

お話し 竹内道敬

叙勲

平成26年秋の叙勲において、常磐津都岳蔵理事長が旭日雙光章を受賞されました。

誠におめでとうございます。

会員異動

入会

ジュリー・イエッツィー(都岳蔵社中)

西口さとみ(小欣矢社中)

門田さおり(小欣矢社中)

園延舞(小欣矢社中)

退会

進会員 巴菜紗都(二巴太夫門弟) 8月

死亡

進会員 明巴太夫(二巴太夫門弟) 10月

カルチャー ときわづ 一期生 生徒募集

- 内容** 浄瑠璃(唄)と三味線の講座
- 場所** 当協会事務所(国立文楽劇場東隣)
- 期間** 平成27年4月～平成29年3月まで
- 時間帯** 昼の部(2時～)・夜の部(6時～)
講師の都合により各週曜日が変わります。
- 人数** 1講座 10名まで
- 費用** 教材費5千円(初回のみ)月謝5千円(月3回稽古)
手ぶらでお越し下さい。

お申込みお問合せはFAX及びEメールにて

一般社団法人 関西常磐津協会

〒542-0072 大阪府中央区高津2-8-10 末広ビル502

TEL:06-6214-0753 FAX:06-6214-0755

E-mail:info@kansai-tokiwazu.com

江戸浄瑠璃「常磐津節」に触れてみませんか

編集後記

8月15日、翌日の本番に向けた下合わせの後、普段の如く楽屋から一巴太夫師匠の御手をとり、タクシーまでお見送りしたのが最期でした。7月松竹座の昼夜2演目という大仕事も1ヶ月まっとうされた矢先のこ

とで、「まさか」という思いは今なお続いています。役員改選を控え、次号から編集担当も交代いたします。原稿をお寄せいただいた皆様には心より御礼申し上げます。(若音太夫)